

新年のごあいさつ



野々市市長 栗 貴章

新年あけましておめでとうございます。平素より市政の推進に対しまして格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年4月に厚生労働省から発表された平均寿命で、野々市市の男女がともに県内第1位、女性は全国第5位の88.6歳という大変喜ばしい報道がありました。「県内一若いまち」のイメージがある本市が、長寿でもあることはがん検診などの健康診断の受診率が高いことが考えられます。それに加え、一昨年から市老人クラブ連合会が、30分に1回は立ち上がり座りっぱなしの生活をやめて体を動かす「スタンドアップ301」運動の取り組みを始められました。いくつものテレビ局から取材があり、たびたび放送されることで、全国から注目されるようになりました。

元気に活躍され、それぞれの立場でその力を発揮されることは、高齢者の皆様だけでなく、市制施行以来、掲げてきた市民協働のまちづくりが定着し、その意識が自然と根付いてきているのではないかと思います。「いつまでも人生の主役」と感じていただける野々市を市民の皆様と一緒に、これからも創り上げていきたいと思っております。

今年4月には本町地区に新しい中央公民館と市民活動センター、そして民間商業施設の機能をあわせ持つ「にぎわいの里のいち カミーン」が開館する運びとなっております。愛称となりました「カミーン」はスペイン語で「道」を意味します。

施設周辺の本町通りは、江戸時代「北国街道」であり、宿場町として、荷物を運ぶ人や馬を準備していました。室町時代には白山信仰のため白山比咩神社に向かう「白山大道」が通り、交通の要衝となっていました。歴史を積み上げてきたこの地域への畏敬の念と、今後の繁栄、そして、これからの新しい道を切り開く期待と希望を込め「道、カミーン」と名づけました。

「学びの杜のいち カレード」同様に、カミーンも多くの皆様にご利用いただき、本市のにぎわい創出の一翼を担うための様々な価値を見出せるよう、その「道」を進めてまいりたいと考えております。

新しい時代がはじまろうとしています。過去から受け継ぎ、次代へとつないでいかなければならないものも大切にしつつ、新しい時代が生み出すものを敏感にとらえながら、ひとつひとつの施策をさらに着実に展開する所存でございますので、本市への一層のご支援をよろしくお願いいたします。

迎えました年が皆様にとりまして、明るく素晴らしい年となりますようお祈り申し上げます。



4月に開館予定の「にぎわいの里のいち カミーン」



開館から1年足らずで利用者が50万人を突破した「学びの杜のいち カレード」



古くは交通の要衝となり、現在もかつての姿を残す本町通り

